

基本【別紙2】

大阪市立今里小学校 令和元年度 校長経営戦略支援予算【**基本配付**】実施報告書 (補足説明資料)

○年度目標と取組の設定について

本校では、全市共通目標からの2点、

- ①小学校経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させること
- ④小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させること

学校の年度目標から、1点

- ①地域連携の取り組みや多様な体験学習により、児童の人権感覚・好奇心・探究心を育み、魅力ある学校づくりを推進すること

を年度目標とした。

年度目標に応じた事業効果を測る指標として、

○校内児童アンケートの「わかるまでくりかえし勉強をがんばっている」での肯定的な回答の割合を75%以上にする。

○情報活用力の育成をめざした主体的対話的な授業について、研修会や全学年での授業研究会を計画的に実施する。

○道徳科および人権教育の取り組みの授業公開や体験的な学習を各学年1回は実施する。

の3点を設定した。

上記を達成するために、以下の3つの取組を行った。

- (1) 個に応じた学習指導の実施
- (2) I C T活用授業の実施、授業研究会の実施
- (3) 多様な体験活動（校内・校外）の実施

1. 取組内容について

取組内容（1）について

1-(1)-1 取組を実施する必要性

本校では、平成30年度の学力経年調査の結果はほぼ標準（H30 標準化得点99.875）といえるが、上位層、下位層の児童の割合がともに増加し、二極化が際立ってきている。下位層の児童に対し、授業での発問や指示を的確に把握し学習意欲を高めることで、基礎基本の理解定着を図ることが必要である。

上記の課題を解決するために、教育振興基本計画における【**施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組**】の一環として学びサポーターを活用し、個に応じた学習指導を実施した。

1-(1)-2. 取組を実施することにより期待できる効果

個に応じた学習指導の実施により、児童が「わかった」「できた」という喜びを感じることで「わかるまでくりかえし勉強をがんばる」ことが期待できる。

1-(1)-3. 具体的な実施内容

具体的な実施内容としては、学びサポーターを授業に配置し、下位層の児童が発問や指示を的確に把握して学習活動に取り組めているかをサポーターが担任とともに確認しながら支援し、学習意欲の向上と基礎基本の学習内容の定着につなげる。

1-(1)-4. 取組に対する達成状況（A～D）及びその評価理由

・取組に対する達成状況：B

・評価理由：

学力経年調査の結果からは、前年度を上回る目標は達成できない学年があった。学びサポーター活用により、校内児童アンケートの「わかるまでくりかえし勉強をがんばっている」での肯定的な回答の割合が90.9%という成果をあげることができた。

以上の成果から、B評価とした。

取組内容（2）について

1-(2)-1. 取組を実施する必要性

取組内容（1）で述べたように、学力面での二極化が際立ってきている。下位層の児童に対し、授業で視覚的な支援を活用し発問や指示を的確に把握できるようにして学習意欲を高め、基礎基本の理解定着を図ることが必要である。また、思考力・判断力・表現力を育てるための主体的・対話的で深い学びのある授業には、ICTを効果的に活用することが必須である。

上記の課題を解決するために、教育振興基本計画における【施策4 国際社会において生き抜く力の育成】【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】の一環として、ICT活用授業の実施、授業研究会の実施を行った。

1-(2)-2. 取組を実施することにより期待できる効果

ICT活用授業の実施、授業研究会の実施により、児童が「わかった」「できた」という喜びを感じることで「わかるまでくりかえし勉強をがんばる」ことが期待できる。

1-(2)-3. 具体的な実施内容

具体的な実施内容としては、下記の通りである。

① ICT活用授業の実施

ICT活用計画を作成し、児童が主体的にICTを活用する授業を各学年で学期に2回以上実践する。

② ICT活用の研修会、授業研究会の実施

情報活用力の育成をめざした主体的対話的な授業について、研修会や全学年での授業研究会を計画的に実施する。

1-(2)-4. 取組に対する達成状況（A～D）及びその評価理由

- ・取組に対する達成状況：A
- ・評価理由：

ICTを活用した視覚的にわかりやすい授業により、校内児童アンケートの「わかるまでくりかえし勉強をがんばっている」での肯定的な回答の割合が90.9%という成果をあげることができた。

以上の成果から、A評価とした。

取組内容（3）について

1-(3)-1. 取組を実施する必要性

本校は、小規模校で落ち着いた学習環境の中、児童は同学年、異学年とも良好な関係を築いている。しかしこれからの社会に向けては、固定しがちな仲間関係を広げ、自尊感情を高め、人権感覚・好奇心・探究心を育むことが必要である。さらに豊かな心を育て、魅力ある学校づくりをすすめたい。上記の課題を解決するために、教育振興基本計画における【施策3 道徳心・社会性の育成】の一環として、多様な体験活動（校内・校外）の実施を行った。

1-(3)-2. 取組を実施することにより期待できる効果

地域連携の取り組みや多様な体験活動により、児童の人権感覚・好奇心・探究心を育み、魅力ある学校づくりを推進することができる。

1-(3)-3. 具体的な実施内容

具体的な実施内容としては、各学年でゲストティーチャーや活動の支援人材を活用したり、積極的に校外での体験活動（芸術鑑賞含む）を実施したりする。

1-(3)-4. 取組に対する達成状況（A～D）及びその評価理由

- ・取組に対する達成状況：A
- ・評価理由：

地域と連携した取り組み、区の事業の活用等により、各学年でゲストティーチャーの講話や多様な体験活動を計画実施し、児童の人権感覚・好奇心・探究心をかきたてることができた。児童アンケートでの「命や人権について考えることがある」の肯定的回数が大きく伸びている。（H30：86.4% → R1：92.3%）

以上の成果から、A評価とした。

2. 総論

2-1 年度目標の達成状況、総評

上記のような取り組みにより、「小学校経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させること」について、結果はほぼ全市平均と同等（R1 標準化得点 99.875）といえるが、全学年向上の目標は達成できない学年があった。しかし、校内児童アンケートの「わかるまでくりかえし勉強をがんばっている」での肯定的な回答の割合が90.9%と大きく目標を上

回る成果をあげることができた。

また、小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は前年度より増加しており、（H30：73.5% → R1：79.9%）、主体的・対話的な授業展開を意識して指導の工夫を進めた成果といえる。

地域と連携した取り組み、区の事業の活用等により、各学年でゲストティーチャーの講話や多様な体験活動を計画実施し、児童の人権感覚・好奇心・探究心をかきたてることができた。児童アンケートでの「命や人権について考えることがある」の肯定的回答が大きく伸びている。（H30：86.4% → R1：92.3%）

2-2 学校協議会における意見

- 友達と話し合いながら学習を深めているということで、互いに良い刺激を受けて学んでいることがわかる。わかるまで繰り返し勉強をがんばっているのも、そこからのつながりだろうし、学習意欲の高まりを感じる。
- ICT 機器の活用は、これから時代を生きる子どもたちにとって、必須なものであり、それについて本年度研究に取り組まれ、主体的・対話的な学びが深められていて、素晴らしいと思う。今後とも研鑽し、教育活動の推進を図っていってほしい。
- 地域等との様々な取組により、「命の尊さや人権について考えたことがある」について肯定的回答が伸びていることも喜ばしく思う。